

# 活動報告書

報告者氏名:近藤 創 所属:香川県立善通寺養護学校 記録日: 2015年 2月 20日

## 【対象児の情報】

### ・学年

小学部6年

### ・障害名

二分脊椎

### ・障害と困難の内容

電動車いすを使用している。首の可動域が狭く、左右にあまり顔を動かさない。

## 【活動目的】

### ・当初のねらい

対象児の立場になって、彼のもつ困難さを考えたときに、視界が狭く苦勞していることに気づくことが出来た。そこで彼の視野を広げ、立つことが出来る児童と同じくらいの高さの視野や、左右、後ろ方向の視野を手に入れ、見たいものを見ることが出来るようにしたいと考えた。

### ・実施期間

2014年5月～12月

### ・実施者

近藤創 堀江知愛子

### ・実施者と対象児の関係

担当教員、学年主任

## 【活動内容と対象児の変化】

### ・対象児の事前の状況

車いすを使用して生活しているため、背伸びをすることができない。また、首の可動域の狭さから振り返ることも難しい実態があった。

隣の教室に入るときに教室の窓ガラスに背が届かないことから中の様子を確認することが出来ず、しばしば授業中にノックをしまして気まずい思いをすることがあった。



(図1)

たらいの中のボールをすくうゲームでは、背伸びをすることが出来ないことにより、手は届く高さにもかかわらず、たらいの中が見えないためにゲーム

をすることが出来なかった。そこで教職員が抱きかかえてゲームに参加した。(図1) この光景に違和感を感じ、児童の気持ちになって考えた。「見えさえすれば本来の力でできるのに」そこで、視野を広げ、たらいの中を見ることが出来てゲームに参加できるアイデアをと考えるうちに今回のデジタル潜望鏡のアイデアが生まれた。

### ・活動の具体的内容

iPadと一脚(自撮り棒)とiPhoneを使って、デジタル潜望鏡(図2の赤囲い)を作り、車いすに座ったままで背伸びや振り向くことを可能にする。

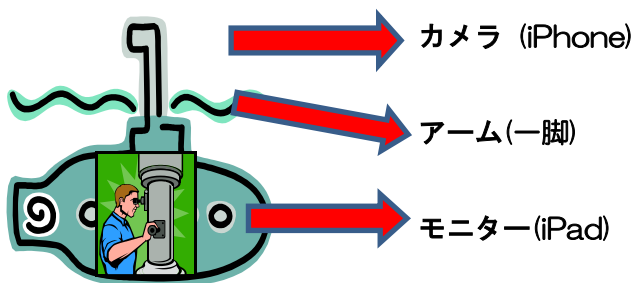


図2

魔法のワンド完成!

1メートル伸びます

### ・対象児の事後の変化

**楽しい! → あそこはどうなってる? 見えた! → 友達に教えてあげよ → 僕が見てあげよっか?**

活動当初はモニターに映る映像が楽しくて、いろいろなものを見て楽しんでいました。その後、見るのが特別でなくなると興味が広がった。修学旅行では、友達に何があるのか教えてあげるような姿も見られた。受け身でなく、遠慮せずに行えることが増えると、「できた」という経験やそれによる新しい経験を得られるだけでなく、自分自身の評価や友達との接し方も変わってきた。

## 【報告者の気づきとエピソード】

事前の困り感	デジタル潜望鏡を使っの対象児の感想
<p>教室の中の様子を知りたくても、窓までの高さが足りないためにのぞけず、授業が続いているのにノックをしまい気まずい思いをすることがあった。</p>	 <p>隣のクラスの友達のところに来たけど、窓から中の様子がわかるから、遊びに入っていかがよくわかるよ! 授業中に入って気まずい思いをしないでいいのはいいなあ。</p>

首の可動域が狭いために、後ろが気になったとき振り向いて確認することが出来ない。電動車いすで回転して確認するには手間とスペースが必要となる。



ごみを集めて来てくれたんだね！  
ありがとー！急に車いすを回して危ない思いを友達にさせたことがあったから、これで後ろが見られるのはいいなあ。

上の棚にある商品のことが気になるが、高さが足りないうえに見えなかった。



そこに何があるか、気になるところを見ることができるのはうれしいな。教えてもらうだけじゃどんな品物が正確にはわからないし。

吹き抜けの下が気になる。電動車いすに座ったままでは覗きこめない。



こういうのが見たかった！  
うれしい！  
みんなに見せてあげたいな！

動物園で岩山の上にライオンがいるが、車いすの高さからでは角度的に姿を確認することが出来ない。



ライオン、昼から寝てる。せっかく来たから、自分で見れて良かった。Nちゃん、一緒に見ようよ！！

## 今後の見通し

iPadとiPhoneというあるテクを使うことで、機器を用いて視野を広げることが児童にとっては様々な場面で有効であり、それにより今まで見過ごされていた困難さを解決して児童本来の探究心や観察力を育てたり、日々の生活の中での様々な経験をする機会を増やしたりすることを確認することが出来た。

あるテクを使用した今回の実践で有効性が確認できた今後は、更に使用しやすいように機器のフィッティングを進めていきたいと考えている。例えば雲台を工夫して、手元で簡単に操作をすることができるようにしたり、アクションカメラを購入し、準備や運用をより簡単に自分でできるような環境を作れるようにしたりしたいと考えている。

もっと操作しやすくするには？



雲台を工夫するともっと使いやすいかも！

もっと簡単に準備がしたい？



専用に機器  
を用意する  
と使いやす  
いかも？

機器があることで誰よりすごい力が持てる？



360度を撮影  
できるカメラなど  
を使うと、他の  
人より広い視野  
が手に入るか  
も？

### まとめ

今回の実践で、S君はiPadとiPhoneを使って背伸びをしたり振り返ったりして見る力を手に入れた。私たち教員は、長く子供たちと接するがゆえに、車いすを使用している子供たちが、背伸びが出来ない、高いところにあるものを見ることが出来ないというのはよくあることとして、その困難さを見過ごしていることがあるのではないだろうか。

私は合理的な配慮を考える上で大切なことは、子供たちの困難さについて、自分のこととして考えることだと思っている。もし私が車いすで生活をしていたら、首があまり動かなかつたら、どう困る？そして子供たちは今までどんな困難さを見過ごされてきている？そこからスタートすることが大切だと改めて確認することが出来た実践だった。

また、機器の選び方についても再確認することができた。最初から完全なシステムを構築するためにはコストがかかる。それを家庭にいきなり求めることは難しい。そこで身近にあるものをうまく合わせて使い、有効性が認められたならそのことをベースにさらに良いものを提案し取り組んでいく。そうすることで「よりよいフィッティング」、「意味のある機器」、「使うためのスキル」などがバランスよく構築されると思う。そうして能力の一つとして使うようになった機器は、本人にとってなくてはならないものになり、卒業後も自然に使ってしたいことに取り組むための力となるのではないだろうか。